

L O N D O N - T O K Y O - N A G O Y A - 3 3 3 1 A R T C Y D

ALLOTMENT

http://www.allotment.jp

ANNUAL ART MAGAZINE

vol.02
Autumn
2012



ALLOTMENT

×



3331
ARTS CYD

2012.12.01(sat) 15:00-19:00 アーツ千代田 3331 にてイベント開催!

『ロンドンの非営利団体 ACME と、アーティストの制作環境を考える』

ロンドンのアートシーンを

創り出した男、

ジョナサン・ハーヴェイ初来日!

国内からは9人のプレゼンターが登場
アート、建築、不動産、ディベロッパー ...
すべての視点から、日本の可能性を再発見する。

2012.10 - start!
若手アーティスト支援のための
トラベルアワード「アロットメント 2013」
今年は 10 月より募集開始!

アロットメントのはじまり

このプロジェクト「ALLOTMENT (アロットメント)」は 34 歳にして交通事故で他界した若き美術作家、與語直子の活動を振り返りながら、彼女の友人たちができることを考えて始めたささやかな活動です。

彼女は自己の人生と向き合いながら作品制作を続けて行く中で、現実的な多くの困難に直面し乗り越え、作品を生みだし発表しようとしてきました。そしてその強い意志と行為こそが彼女が作家であった証しでした。同時にそこに生み出された作品こそ、無言の価値を認められ、一片の希望を与える美術というものになるのかもしれない。

このプロジェクトでは、そんな美術の一片のかけらを手にしようと試行錯誤を繰り返す作家を支援するために、最初の出発点としてトラベルアワード(制作旅行援助金)を開設しました。プロジェクト ALLOTMENT= 家庭菜園で何を育てることができるのか、小さいながら土壌を耕して種をまく作業を始めました。

ロンドンから東京へ

與語直子は 1993 年に渡英し、チェルシー・カレッジ・オブ・アート&デザインで彫刻を学びます。1998 年に卒業した後は、ロンドンを拠点に作品を制作し続け、自己の表現手段を白黒の写真へと移行していきました。ランドスケープを主な被写体とし、スペイン、チェコや南米のベネズエラなどへ幾度となく足を運び、亡くなる数週間前にはスペインのグラナダで約 400 ショットの撮影をしていました。残念ながらこ

れらを自分の手で現像プリントすることはできなかったのですが、彼女の友人達の手でそれらは作品となり、ロンドンでの展覧会そして若手作家の支援のプロジェクトへと発展することになりました。

2009 年にアロットメントを始動。ウェブサイトを開設すると同時にトラベルアワードの告知をおこないました。さらに 10 月には與語直子作品集『GRANADA』(蒼穹舎)を刊行。同年 12 月にはロンドンのチェルシー・フューチャー・スペースにて與語直子の個展を開催しました。さらに 2010 年 2 月には東京のアートスペース KANDADA へ巡回。同展のオープニングパーティで、初年度のトラベルアワードの受賞者を発表し、新聞各紙にアロットメントの活動がとりあげられました。

2010 年度トラベルアワードには国内を中心に 53 名の応募がありました。審査員の西村智弘、近藤正勝両氏による厳正な審査の結果、隼田大輔さんが受賞。またこのトラベルアワードの応募者を軸に、ウェブサイト上でアーティスト・アーカイブの構築を開始しました。

2011 年、愛知で開催

ロンドン、東京と巡回してきたアロットメント主催の「與語直子展 /Granada」は、2011 年 4 月 24 日～5 月 5 日に與語直子の故郷、愛知県「長久手町文化の家」へ巡回することとなりました。本展では、與語直子が他界する直前に撮影したスペインのグラナダのランドスケープ 16 点を展示。同時に、第 1 回トラベルアワード 2010 年の受賞者、隼田大輔さんが、アワードの賞金により屋久島で撮影された新作展を開

催しました。

同展のオープニングでは 160 名を超える来場者があり、アロットメントの活動を広く知っていただける機会となりました。会期中に開催したワークショップ『影絵で遊ぼう』では、15 組の親子が参加。講師の河面理栄さん、児玉美香さんの元で、展覧会作品の鑑賞から、好きな作品を選んでストーリーをつくり、切り紙から影絵を作るプロセスを楽しむことができました。

また、第 1 回トラベルアワードの報告を中心に、與語直子さんや隼田大輔さんの作品に対する批評文、9 人のアーティストアーカイブの情報を掲載した冊子「ALLOTMENT ANNUAL MAGAZINE vol.1」を発刊。会場で配布すると同時に、世界各国のアート関連施設へも配布されました。

第 3 回トラベルアワード、募集開始!

2011 年 10 月には、「第 2 回トラベルアワード 2011」の審査が行われました。全国 47 名の作家の方々からご応募いただき、審査員の丸山直文、近藤正勝両氏による厳正な審査の結果、平川祐樹さん(※ 1)が受賞。また応募者から 3 名の作家が新たにアーティスト・アーカイブに新たに加わりました(次項参照)。

そしてこの度、「第 3 回トラベルアワード 2013」の募集を開始します。審査員は、昨年に引き続き丸山直文氏(美術家)と新しく住友文彦氏(キュレーター)を迎えます。募集期限は、3 月末日、受賞者の発表は 4 月中旬を予定。詳細は、ホームページでご確認の上、ご応募のほどお願いいたします!



1:2011年4月24日「與語直子展/Granada」、「隼田大輔新作展」のオープニング風景。2-4:展覧会会期中に開催したワークショップ『影絵で遊ぼう』の様子。講師に河面理栄さん、児玉美香さんを迎え、展覧会の作品の鑑賞から、好きな作品を選んでストーリーをつくり、切り紙から影絵を作った。

※ 1 | 平川祐樹: 1983年愛知県名古屋生まれ。2008年名古屋学芸大学大学院メディア造形研究所修了。現代の物語(ナラティブ)をテーマに、映像と場所・空間の関係を基に作品を制作する。2011年秋よりアカデミー・シュロスリチュード招聘作家としてドイツに滞在予定。上写真は作品「Resight, 2007, site-specific Video Installation / 02:30 Loop / SD」

2011年度 | アーティスト・アーカイブ

Artist Archive 10

- 池崎 拓也

IKEZAKI Takuya

- <http://ikezakitakuya.com/>
ikezaki.takuya@gmail.com

- 1981年、鹿児島県徳之島生まれ。2005年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。2008~2010年、中国北京中央美術学院造形部実験芸術科研修終了

- 主な展覧会

2011: 「SLASH / 04 飛ぶ次元-found a pocket-」 island MEDIUM, 東京

2010: あいちトリエンナーレ 2010 企画公募「皮膚と地図-4名のアーティストによる身体と近くへの試み」愛知芸術文化センター, 愛知

2009: 重慶国際芸術祭「現場-東亜青年インスタレーション作品実験展」重慶 501 現代美術館, 中国

2009: Emerging Artist Support Program 2008 「座布団レース-偶然の出会いから急激に広がるイメージ」トーキョーワンダーサイト本郷, 東京

2009: 個展「瞼の裏側とその空虚マップ」新宿眼科画廊, 東京

2008: 「Formless Life」村住知也宅, 金沢

2007: 個展「その時、瞬きました」Loop Hole, 東京

2006: 個展「太陽で目が眩んじゃった」中崎透遊戯室, 武蔵野美術大学内, 東京



机上の空 /70x90x90/2011、目頭から流れる、空青し、山青し、海青し / インスタレーション /2010

2010年度 | アーティスト・アーカイブ

Artist Archive 01

アー・ユー・ミーニング・カンパニー

Are You Meaning Company

<http://areyoumeaning.com/>
areyoumeaning@gmail.com

Artist Archive 02

太田 麻里

OTA Mari

<http://www.mari-ota.net/>
mari@mari-ota.net

Artist Archive 03

城戸 保

KIDO Tamotsu

<http://bit.ly/fsBSy3>
kidotamo@aol.com

Artist Archive 11

- 福田 良亮

FUKUDA Ryosuke

- <http://fukuda-r.blog.ocn.ne.jp/>
fukuda-r@cyber.ocn.ne.jp

- 1980年、愛知県名古屋生まれ。2001年多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻中退

- 主な展覧会

2011: One Day Cafe #3「上の空」万勝5館, 愛知

2010: 個展「宇宙になって、スパイラル」U8projects(名古屋造形大学石彫場コンテナ), 愛知

2010: 「群馬青年ビエンナーレ 2010」群馬県立近代美術館, 群馬

2010: 「P&E2010」アートコートギャラリー, 大阪

2010: 「アーツ・チャレンジ 2010・新進アーティストの発見 in あいち」愛知芸術文化センター, 愛知

2009: 個展「常夜灯」清須市はるひ美術館, 愛知

2006: 個展「夜のとり」西瓜糖, 東京

2005: 個展「Drawing Painting ⇄」西瓜糖, 東京



家の足 / 油彩 / キャンバス /72,7x72,7/2009、Reborn/ 油彩 / キャンバス /33,3x33,3/2011

Artist Archive 04

佐野 陽一

SANO Yoichi

<http://bit.ly/hIYAJm>
yoichi.sano@gmail.com

Artist Archive 05

隼田 大輔

HAYATA Daisuke

<http://www.hayatadaisuke.com/>
mail@hayatadaisuke.com

Artist Archive 06

平川 祐樹

HIRAKAWA Youki

<http://www.youkihirakawa.com>
youkihirakawa@yahoo.co.jp

Artist Archive 12

- 水野 勝規

MIZUNO Katsunori

- <http://art.ninpou.jp/>
monotonefilms@yahoo.co.jp

- 1982年、三重県生まれ。2004年、カーネギーメロン大学短期交換留学(アメリカ)。2005年、名古屋造形芸術大学美術学科総合造形コース卒業。2008年、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了

- 主な展覧会

2010: 「panorama-すべてを見ながら、見えていない私たちへ」京都芸術センター, 京都

2010: 「中川運河-忘れ去られた都市の風景-」愛知芸術文化センター, 愛知

2010: 「木藤純子+水野勝規 2人展」ギャラリーキャプション, 岐阜

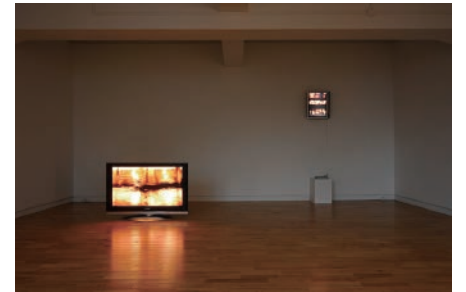
2009: 「Il Dio delle Piccole cose」Casa Masaccio, イタリア

2009: 個展「水野勝規展-グレースケール・ランドスケープ-」INAX ギャラリー, 東京

2008: 「第13回アートフィルム・フェスティバル」愛知芸術文化センター, 愛知

2007: 「水の情景-モネ、大観から現代まで-」横浜美術館, 神奈川

2007: 「Move on Asia 2007」Alternative space LOOP, 韓国



twilight city/ ビデオインスタレーション /2007 [photo: 大須賀信一/Shinichi OOSUGA]、fallwater/ ビデオインスタレーション /2007

Artist Archive 07

眞島 竜男

MAJIMA Tatsuo

<http://www.taronasugallery.com/>
info@taronasugallery.com

Artist Archive 08

村上 友重

MURAKAMI Tomoe

<http://www.tomoemurakami.com/>
info@tomoemurakami.com

Artist Archive 09

吉田 夏奈

YOSHIDA Kana

http://web.me.com/knyshd/2009/kana_top.html
knyshd@mac.com

2012.12.01(sat) 15:00-19:00 アーツ千代田3331にてイベント開催!

アート、建築、不動産、ディベロッパー...その垣根を越えてアーティストの制作環境を考える。

アートを活性化させ、都市を再生する、ビジネスのチャンスも眠っている!

ロンドンからはじまったアロットメントは、この数年間、ロンドンと日本の架け橋になるようなプロジェクトを行いたいと考えてきました。そこで、2012年のアロットメントは、アーツ千代田3331と共同し、イベント『ロンドンの非営利団体 ACME と、アーティストの制作環境を考える』を開催するに至りました。

日本におけるアーティストの制作環境はどのような状況でしょうか。個人ベースのものから行政との共同でつくられるものまで、さまざまな試みが現れてきていますが、まだまだそこには数多くの障壁があるようです。一方、ロンドンのアートシーンに目を向けると、そこにはアクメ・スタジオという団体が存在します。

アクメ・スタジオは1972年に創設された、若手アーティストの活動を支援するチャリティー団体です。ロンドンを拠点に、アーティストへの低価格で質の高いスタジオの貸し出し、また滞在型制作スタジオの供与や各種ワードの享受を通じて、これまで40年間に

5000人以上のアーティストを支援してきました。特にロンドンで生まれ、現代アートの最前線で活躍するアーティストたちの多くは、アクメ・スタジオが提供するスタジオを利用してきたといいます。しかし、世界一物価の高いロンドンで、なぜそれらが成し遂げられてきたのでしょうか。

イベント『ロンドンの非営利団体 ACME と、アーティストの制作環境を考える』は、二部構成で行います。第一部では、アーツ千代田3331の中村政人氏と、アロットメント2013審査委員の住友文彦氏(キュレーター)が選出した、日本各地で理念を持ちながら、アートやクリエイティブな“場”をつくりだすことに関わっている9組の活動報告プレゼンテーションを行います。また、それに続く第二部では、アクメ・スタジオの創設者で代表のジョナサン・ハーヴェイ氏を迎え、レクチャー&パネル・ディスカッションを行います。40年間、ロンドンアートシーンの根底を支えてきたアクメ・スタジオの活動の技術的な側面と理念、そしてその背景にあるジョナサン氏の

作家に対する熱い思いをお話していただきます。アーティストに必要な環境を考えた上で、地主や公共団体、市町村、地元コミュニティ、不動産・地域開発業者、それぞれへのメリットを旨く配分していく。そこにはどのような知恵があるのか。きっと日本の私たちにもヒントになるようなことが、たくさんあるに違いありません。

アートに携わる方はもちろん、これからアートに関わりたいと思っている方、アーティストの制作環境に興味のある方、また建築や不動産、ディベロッパーの方々も是非ご来場ください。企画の背景には、この機会を通して、さまざま人々が繋がり、新しい活動やビジネスへと向かうきっかけになればという想いもあります。9組の方々とジョナサン氏のプレゼンテーション、そこから情報やアイデア、問題を共有し、来場者のみなさんと共に、次の時代のポジティブな“アーティストの制作環境”を考える機会にできればと思います。それでは、会場でお待ちしております!

『ロンドンの非営利団体 ACME と、アーティストの制作環境を考える』

ジョナサン・ハーヴェイ氏の
スペシャルインタビューは裏面へ

日時: 2012年12月1日(土)15:00-19:00
場所: アーツ千代田3331
住所: 東京都千代田区外神田6丁目11-14
企画: アロットメント、アーツ千代田3331

15:00-17:00【第一部】スタジオ・プレゼンテーション

※国内でスタジオを企画運営する団体による活動報告
・柳原絵夢 | アプリユス | 南千住
・杉崎栄介 | Arts Commission Yokohama 芸術不動産 | 横浜
・小川希 | art center ongoing | 吉祥寺
・新見永治 | アートNPOはち | 名古屋
・宮坂省吾、茂井健司、塩川岳 | 石田倉庫アトリエ | 立川
・cobra | XYZ collective | 駒沢大学
・田中陽明 | co-lab | 東京
・芦立さやか | 東山アーティスト・プレイメント・サービス | 京都
・大島芳彦 | ブルースタジオ | 東京

17:00-18:00 【第二部】ジョナサン・ハーヴェイ氏レクチャー

18:00-19:00 パネル・ディスカッション

表題: アクメ・スタジオ 40年の - ロンドンの非営利団 ACME と、アーティストの制作環境を考える -
参加料: 500円(1ドリンク付)
モデレータ: 住友文彦(キュレーター)、コメンテータ: 中村政人(アーツ千代田3331代表)、山野真悟(横浜黄金町バザールディレクター)
申し込み: 10月1日より参加受付を開始します。参加希望の方は、お名前/人数/電話番号を明記の上、件名を「ロンドンの非営利団体 ACME と、アーティストの制作環境を考える」として <info@allotment.jp> までメールをお送り下さい。

若手アーティスト支援「第3回アロットメント トラベルアワード」ウェブ上にて募集中

アロットメントでは、2012年10月より第3回トラベルアワードの募集を開始します。締切りは、2013年3月末、発表は2013年4月中旬を予定しています。審査員は昨年に引き続き丸山直文(美術家)と新しく住友文彦(キュレーター)をお迎えします。詳しくは下記、ウェブサイトにてご確認ください。

アロットメントが与えるトラベルアワードは、若手美術作家の活動を支援するため、制作旅行助成金として20万円を受賞者一名に授与するものです。その目的は、若手美術作家が活動していく中で日常生活と作家活動の両立に伴う様々な問題に対して、新たな行動の機会を与え、前進する制作の助けをすることです。

締切りは、2013年3月末日 www.allotment.jp

募金のお願い

このプロジェクトは、故與語直子のわずかながらの遺産を元として始まり、友人などの温かい支援とボランティア活動で運営しています。今後もできる限り若手の優秀なアーティストの支援を継続して行っていく所存です。美術作家が少しでも自由に解放され、作品制作ができるよう、アートをとりまくより良い未来のために、募金をしていただくと嬉しく思います。募金使用用途のご報告は、毎年発行する予定の『ALLOTMENT MAGAZINE』にて報告してきます。小額でも非常に助かります。どうぞ下記の口座番号まで募金を宜しく願います。また、ご支援の暖かいメールだけでも嬉しく思います。

ALLOTMENT 事務局: info@allotment.jp

| 銀行: 三菱東京UFJ銀行 | 店番: 796(尾張旭支店)

| 口座番号: 0044481(普通) | 振込先名: アロットメント

ロンドンの アートシーンを支える スタジオ開発イニシアチブ

Acme Studios CEO

ジョナサン・ハーヴェイ氏インタビュー



アーティスト向けの格安スタジオを開発・提供するロンドンのチャリティー団体アクメ・スタジオが、今年で設立 40 周年を迎える。1970 年代初頭、戦後の都市開発に大きく取り残され荒廃していた東ロンドンで、安価な制作環境を求めるアーティストを対象にスタジオ斡旋サービスを始めたアクメ・スタジオ。やがてこの一帯が時代に先駆けるユースカルチャーと現代アートの発信地として生まれ変わるのを知るところ。現在ロンドン市内に 429 のスタジオユニットを管理し、レジデンシー・プログラムやアワードの授与を通じて、今まで支援してきたアーティストは 5000 人以上にのぼる。東ロンドンにおける地域発展の歩みと共に、スタジオ提供からコミュニティー文化の育成と雇用開発まで東ロンドンのアートシーンを先導してきたアクメ・スタジオの広範な活動を、創業者で現 CEO のジョナサン・ハーヴェイ氏とともに振り返った、そこに日本のアーティスト環境を改善するための手掛かりを求めて—

(聞き手：近藤正勝 / 構成・翻訳 大坂紘一郎)

“ロンドンには世界で最も地価の高い都市の一つだが、アーティストには安価なスタジオが必要だ。私たちは幸運にもこの問題の解決策を見いだした”

近藤正勝(以下、MK と表記)：今から 40 年前、ロンドンもアートの世界も今とは随分違っていたでしょうね。

ジョナサン・ハーヴェイ(以下、JH と表記)：60 年代から 70 年代の初頭、アート・カレッジの学生はとても恵まれていたと思います。ラティカルでオルタナティブな空気に満ちていました。レディング(ロンドンから西に 60 キロ、イギリス南西部の都市)で学生だった私たちにとって、ロンドンはすべての出来事がおこる憧れの地でした。なんとかロンドンに出てそこに住み、アーティストとして活動を続けたいと思いましたが、ロンドンの生活費の高さは大きな問題でした。

MK：ジョナサンさんはレディング大学卒業後、ペインティングの修士のためにチェルシー・スクール・オブ・アート(現、ロンドン芸術大学)に移ります。同年 1972 年にアクメ・スタジオを創設するに至りますが、その経緯をお聞かせいただけますか。

JH：私たちより 2、3 年先にロンドンに移っていた先輩達が、荒廃した東ロンドンでスタジオを借りるチャンスを見だしていました。当時の東ロンドンは、爆破された建物がそのまま残され、まさに戦後そのものでした。そこでは当時、2つの大きな動きがありました。ひとつは、コンテナ輸送のためのドックが移動しており、多くの倉庫が空になっていたこと。ふたつ目は、ロンドン自治体(the Greater London Council、以後 GLC と表記)が、大型居住地の建設のために、その一帯のテラスやコテージの取り壊しを計画していたことです。

私たち(私と妻、アクメ・スタジオの共同創設者のデイヴィッドと彼の奥さんの 4 人)が、ロンドンに来て安いスタジオを探していた時も、やはり東ロンドンに一番の可能性を感じました。GLC に行くと、アート・カレッジあがりの長髪の係員が、「スクワット(不法占拠)したら追い出すけれど、もし自分たちが住宅協会を組織し、正式な公



1972 年当時、最初のスタジオの前にて共同設立者のジョナサン・ハーヴェイ氏とデイヴィッド・パントン氏



1988年、スタジオ前でアーティストと家族たち

「的団体になったら交渉してもいい」と言いました。そこで簡単な事務手続きを経て、当時の全国住宅協会に登録したのです。廃墟となった建物をスクワットする人が多かった中で、私たちは合法的なルートを選びました。

MK: 協会を設立した時のメンバーは、みなさんアート学生だったのでしょうか？どのようなチーム構成だったのですか？

JH: ももとは、レディングからロンドンに来たアーティスト仲間が10人から15人いました。組織を作るには登録料の70ポンドと発足メンバー7人が必要でした。つまり、一人10ポンド負担しなければならなかったのです。そうすると熱心だった友人も途端に話から下りてしまい、結局のこったのは私たちだけになってしまいました。

MK: 学生時代は10ポンドも大金ですからね(笑)。GLCから最初に任された物件から、どのようにして規模を拡張していったのでしょうか。

JH: 最初にGLCから5つの物件を借りることができました。それは21ヶ月後に取り壊される物件で、大変劣悪なコンディションでした。その代わりに、自分たちで内壁をとり払い自由な制作空間をつくることができました。GLCはその結果にととても満足し、空き家になっている物件を次々任せてくれました。それが多くのアーティストに口コミで広がり、最初の1年で100件程の不動産をマネージメントすることになったのです。

自分たちのニーズのためだけに必要としたメカニズムが、短い間に、境遇を同じくした多くのアーティストに利用される大きな組織へ成長しました。それに伴って、アーティストだった自分もこの活動にフルタイムで携わるようになりました。自分の制作活動にける時間を奪われてしまうのを嫌がって、このような活動から遠ざかるアーティストも多いですが、私は気になりませんでした。新しい活動分野を切り開くことは、それ

自体クリエイティブな仕事だと思いますから。

MK: アート支援のチャリティー団体は数多くありますが、いかに経済的に機能させ継続するのかという目先の問題に追われ、自分たちの給与を賄ってフルタイムで専念できるところまではなかなか届かないのが実情ですが……。

JH: 当初、貸しスタジオの収益はすべてGLCに直接渡ってしまい、私たちは無料で組織を運営している状態でした。もちろん、これでは長続きしませんよね。最初にファンディングで助けてくれたのがThe Calouste Gulbenkian Foundation, Londonです。それでやっと私とデイヴィッドにささやかな給与が出るようになりました。その後アーツ・カウンシル(The Arts Council of Great Britain、現、Arts Council Englandの前身)が、私たちの活動を文化とアートに有益であると判断し資金の支援を始めてくれました。

“チャリティーであることと アーティスト主体であることが 私たちの活動理念”

MK: 私がスレード大学院を卒業したのは1993年でした。それからすぐに、東ロンドンのブリックストンにあるスタジオを借りしましたが、隣のスタジオには、Richard Deacon、Grenville DaveyやAnthony Gormleyなど、イギリスを代表するアーティストたちが私と同じようにアクメ・スタジオを通じてスタジオを間借りしていました。アクメ・スタジオを過去に利用されたアーティストに、他にどのような方がいましたか。

JH: 私たちはスタジオ提供団体です。作家と交わす契約書が私たちの関係を定義しています。つまり私たちと作家は、家主と賃借人の関係であり、アーティストを(ギャラリストのように)レプレゼントするものではありません。従ってアーティ

ストのプライバシーやプロモーションにも一切関与しません。有名無名に関わらず、すべてのアーティストを等しくリスペクトしています。

だから、現在アクメ・スタジオにいるアーティストの情報については言えませんが、既に離れて行ったアーティストのことであれば言うことができます。ターナー賞受賞者でいうと、8、9名はいるでしょうか。例えば、Richard Deacon、Rachel Whiteread、Martin Creed、Grayson Perryなど。Grenville Daveyもターナー賞を受賞しましたね。

MK: ギャラリーとの契約がなく経済的に苦しい立場にあるアーティストを対象に、スタジオ提供を進めるアクメ・スタジオの影響は、個々のアーティストをこえてロンドンのアートシーン全体に及んでいます。アーティストからの信頼も厚いこのような組織を運営する上で、どのような理念をお持ちですか。

JH: 私たちは住宅協会というすでに確立された統制モデルをアートのチャリティー団体として利用しました。つまり、経済的な理由で困難な人たちにプロパティを確保する手助けをすることです。振り返ってみると、この組織モデルが非常によく機能しました。他のアートに関するチャリティー団体の多くは教育目的です。その場合公益になる教育プログラムを考えたり、つまり「公」を意識した活動をしなければなりません。私たちは住宅協会なので、プロパティ(スタジオ)と利用者(アーティスト)だけを考えればよくて、完全にアーティスト主体であることができます。

MK: イギリスではチャリティー団体にはどのような制約があるのですか。

JH: チャリティー団体の所有する資産は、チャリティー目的で使われなければなりません。資金管理は常にFSA(Financial Services Authority)によって厳しく規制されています。また活動内容に関してはCharity Commissionによって監督されています。

MK: アクメ・スタジオはどのような物件を探し、スタジオとして開発しているのですか。

JH: 取り壊しが決まった廃墟の再利用は、確かに安いのですが、短期しか借りられません。しかし、アーティストは常に長期間安定した、かつ質



1997年、住居付きスタジオ
Work/Live unit at the Fire Station

が良いスタジオを求めています。しかしそれは高くつく。どうやってこの相克を打破するのが、私たちの過去 40 年の活動です。実際、不動産市場はパワフルで、アート・カウンシルも政府さえ介入できない。私たちは、この不動産市場のダイナミズムに微力ながらも手をかしたいと願っています。

MK：現在 23 平方メートル（約 7 坪）あたり月平均 198 ポンド（約 2 万 5500 円）で貸し出し、一般不動産の 1/3 程度とされています。地価変動の著しいロンドンにおいて、どのように低価格を維持しているのですか。

JH：問題は、短期リースから、長期リースへ移行し、さらにどうやって不動産所有にこぎつけるかということです。実際、アーティストへのスタジオ代を極力抑えると、不動産購入のための元手資金が増えず、スタジオ代を上げれば本来の目的に沿わずに本末転倒になってしまいます。ポイントは、マーケットの仕組みを理解し、好機を逃がさず適切な判断をすることです。

MK：発足以来、短期リース契約が中心だったスタジオ提供のモデルから、不動産購入へと踏み出したのは 90 年代中頃でしたね。

JH：国営宝くじ基金（※1）が始まった 1994-95 年が転機でした。この時からアーツ・カウンシルに前例のない巨額の資金が流れ、過去 10-15 年に渡るイギリスの文化的インフラの向上につながりました。

これを千載一遇のチャンスと捉え、アーツ・カウンシルに 120 万ポンド（2 億 4 千万円）の助成金を申請しました。（※2）この資金を元に、Copperfield Road の建築物を 70 万ポンド（1 億 4 千万円）、そして元消防局 Fire Station を 24 万ポンド（1 億円）で購入。幸運にも不況時で地価が下がって買い時でした。

“民間企業と交渉して プランニング・ゲインの 可能性を探る”

JH：2005 年にはアーツ・カウンシルに 2 度目で 200 万ポンド（4 億円）の助成金を申請しました。この時は臨機応変な開発プログラムにたいして投資をしていただきました。この資金で、5 カ所の物件を購入し、200 万ポンドを元手に 1000~1200 万ポンド（20~24 億円）相当の資産となりました。つまり 800~1000 万ポンド（16~20 億円）の利益を得ることができたというわけです。

それ以前私たちが扱った建物は、既存の工場などを改築していましたが、必ずしもアーティスト・スタジオとして理想的とは言えませんでした。一般には古い建築物に対する「ロマン」があるようですが、実際使ってみるとひどいものです。正勝さんはよくご存知ですよ。

MK：ええ、雨漏りがひどくて大変でした（笑）。

JH：やはり理想はスタジオ用に最初からデザインすること。その最初の例が、ベッカム（南ロンドン）にある「ギャラリア」（※3）です。

MK：民間不動産会社と共同開発の、新築ユニット・スタジオですね。

JH：ええ、全くの新築です。ここでは民間のパートナーと私たちの考えるアーティスト・スタジオが一つになりました。公共ワークスペースも用意されて、周辺住民に活用していただきます。プロパティー開発では、雇用創出（※4）が建設許可の重要な条件になっています。このような場合、通常は通りに面した建物の 1 階にオフィスやショップを併設します。しかし、アーティストも自営業者とみなせば、制作スタジオであってもこの条件を満たします。すぐに空きが出るかもしれないレンタルスペースにするよりも、私達と協力してアーティストを呼び入れ 99.9% の入居率を保証されたほうが、開発会社にも好都合なのです。このように、民間の開発会社は私たちと関わることで建設許可を得ることができ、さらには長期的収益を上げることができま。これはイギリスで「プランニング・ゲイン」（※5）と呼ばれています。

開発企業との交渉で、私たちは建築費の約半分を払い、これがアーティストへのスタジオ代として後々回収されますが、残りの半分は相手側に負担してもらいます。一見、補助金のようなのですが、企業側も建設許可を得るために私たちを必要としている関係ですから、補助金というわけでもありません。これが 2005 年以降のスタジオ建設の進め方の一つとなっています。

おそらく私たちが最初だと思いますが、このプランニング・ゲインのモデルによって、Leven Road, Harrow Road, Hommerton やその他の開発計画も進み、今後 1、2 年で完成予定の物件もあります。成功するための大切な要因の一つは、スタジオ入居率を 99% 以上しておくことです。

MK：アクメ・スタジオのウェイディング・リストには、常時 800 人以上のアーティスト並んでいると聞きますが、要するにスタジオが空き家になることが無いのですね。

JH：そうです、土地を所有開発する側も、落成初日から満室のスタジオを保証されます。これで新しいスタジオ開設に際しても投機リスクがない。高い入居率はスタジオ代を下げるために必須の条件です。私たちの場合は、マーケティングに頼らず口コミから需要が広がっていったのですが、この入居率はロンドンという環境になれば違ったかも知れません。

多くのアーティストが、次から次へとスタジオの移転を余儀なくされています。いつも引越しを考えなければならず制作に集中できない、そのような事がないように私たちの活動があるのです。

“できるだけアートの現場と関わり、 若手アーティストが直面する 問題点を理解したい”

MK：アクメ・スタジオは地方自治体とも連帯し、現代アートの地域コミュニティへの関与を押し進めてきたことでも知られています。レジデンシーやアワードといった数々のスキームは、関係するコミュニティとの相互利益を強く意識してデザインされていますね。

JH：アクメ・スタジオが地域コミュニティにどうアクセスされ、管理され、どのような意味を持つのかをいつも念頭にしています。しかし、入居しているアーティストに対して、地域のために何かするように強要するべきでは無いと考えています。なぜなら作家ごとにその制作プロセスは違うし、スタジオを必要としている理由も違います。

例えば、コミュニティ・ベースのレジデンシー・プログラムでは、18 ヶ月の無料スタジオ貸出しと助成金を出し、地域を自然に取り組み様な活動をしているアーティストを選んで入居してもらっています。作曲家・サウンドアーティストの ISAC SUAREZ の「The Human Right Jukebox」という作品では、人々が人権に関する自分の意見を録音しそれを路上ジュークボックスで再生するプロジェクトで、サウス・ロンドン・ギャラリーとサザーク区自治体との協力で行いました。（※6）

このように私たちとアーティストとの賃貸関係を曖昧にすることなく、地域とのつながりを深めたい時は、それに適った制作活動をしているアーティストを選定しています。

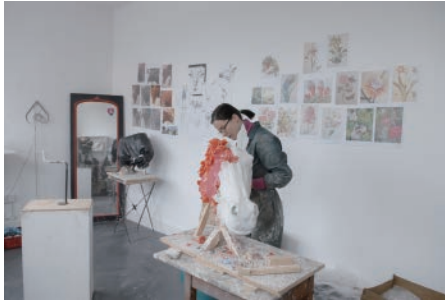
MK：いまお話にありましたが、アーティストの制作内容には一切干渉しないということですね。

JH：その通りです。スタジオ Fire Station ではアワードやレジデンシー・プログラムのために資金的援助もしていますが、私たちの家主としての立場からズレないために、外部組織と協力して行っています。

MK：レジデンシーでは海外の組織とも連携していますね。ロンドンという土地柄もあり、アクメ・スタジオの利用者はとてもインターナショナルですが、特に海外の関わりにおいて今後の展望をお聞かせください。

JH：オーストラリア、カナダ、ドイツ、スウェーデン、スイスの 7 つの文化機関と連帯して、International Residencies Programmes を 25 年程続けています。これまでに海外から 360 人のアーティストを招聘し、全員に東ロンドンの制作ベースを提供しました。

海外のアーティストが個人で申し込める Associate Artist Residency は、最近立ち上げたプログラムです。私たちのチャリティー目的に



上から、新築スタジオ「ギャラリー」の外観、新築スタジオ「ギャラリー」内観、2010年「Acme Project Space」でのオープニング、建設中のスタジオ

符合しないので、コマーシャルとして別個に運営しなければならないのですが、この拡張には興味もっています。

レジデンシー・プログラムで私たちが提供するのはアーティストへの総合的なサポートで、制作スタジオや居住環境の手配だけではなく、他のアーティストへの紹介やネットワーク作りなど、海外のアーティストが一番必要と思われる情報を個別サポートで提供しています。

MK：レジデンシー以外でも、アート・カレッジと連携したアワードも供与していますね。ロンドン芸術大学 (Chelsea & Camberwell) の学部生に毎年授与されるスタジオ・アワードでは、受賞者は卒業後6ヶ月のスタジオ無償供与、助成金とプロによる個人指導を受けることができます。同様に院卒生を対象としたアワードもあります。これも今お話にあったような総合的なサポート、新卒生が一番必要としている制作環境の枠組み

を提供する試みの一つだと思いますが、このようなプログラムでアーティストの選定は、何を基準に行っているのですか。

JH：選定の基準は、供与する各賞やプログラムの報酬がどれほどそのアーティストのためになるかということです。私たちはこれを“Degree of benefit”と呼んでいます。そのアーティストのキャリアに障害となっているものを取り除くことが、アワードの目的だからです。

MK：ハーヴェイさん自身は、どのくらい受賞者選定の審議プロセスに関わっていますか。

JH：可能な限り関わりたいですね。土地開発の仕事が大半になってしまいアートに関わる時間があまりもてませんが、若手アーティストに関わり、彼らが現に直面している今の問題を知ることは、私がアクメ・スタジオを組織した当時の問題設定に帰るために、この上なく重要な機会だからです。アクメのスタッフも多くはアーティストですから、現在のアーティストに課せられたプレッシャーをよく理解していると思いますよ。

“3年後からは助成金を 受けずに、独立”

MK：アクメ・スタジオ設立から間もない1974年から経済的支援の母体であったアーツ・カウンシルですが、近年大幅に助成金をカットしていますね。現在、イギリスの美術に対する助成金はどんな状況でしょうか。

JH：アーツ・カウンシルはもともと4、5年ごとに、資金配布先を再検討する決まりになっています。イギリスのアート・ファンディングはこの再構築のプロセスを経なければなりません。毎回、約1000の団体から申請があり、そのうち300程が助成を受けます。私たちは幸いにも3年までの助成金が確保されています。それにしても近年の助成金カットは大きな混乱を巻き起こしました。

アーツ・カウンシルが独自の判断でファンディング先を決定するという大原則は、近年しだいに失われてきたのではないかと憂慮しています。現在はおそらく、政府が彼らの社会的アジェンダを広告するのにふさわしい団体を選んでいるのではないのでしょうか？私は、アーツ・カウンシルが全く独立した判断のできる組織であるべきだと思います。

3年後には、私たちはアーツ・カウンシルのサポートを離れて、経済的に独立できるようになります。アーツ・カウンシルが私たちに十分投資してくれたおかげで、私たちが今では利益を算出できるほどに成長しましたから。

MK：3年後からは、公的基金に頼らない自助自育型の運営モデルとしてやっていくには、民間とのパートナーシップがますます重要になります

ね。新しいアートへの公的支援には消極的な日本でも、プランニング・ゲインのような民間投資の機運が生まれるといいのですが。

JH：ある国でできたモデルを他国にそのまま適用するのは、システムが違うのでとても難しいでしょうが、日本訪問はとても楽しみにしています。アクメ・スタジオのプランニング・ゲインのモデルが東京で現実可能なかどうかとても興味深いです。都市計画の制度もイギリスとは異なる中で、東京の土地開発会社がアーティストのスタジオ開発に協力してくれることを期待したいですね。

※1：National Lottery: 国営宝くじの利益の3割が、スポーツ、教育、文化活動などに充てられ、当時のブレア政権の文化政策の資金的礎となった。

※2：全て当時のレート「1ポンド=200円」で換算

※3：「ギャラリー (The Galleria, SE15)」は、2006年に(株)バレット・ホームズと提携開発した物件。アパートの一角に現役アーティストの制作スタジオを配した。2006 What House? ベスト開発賞受賞。

※4：自営業であるアーティストは、雇用創出やクリエイティブな地域社会育成のためにも有効で、都市計画法 (開発事業の承認に関わる Section 106) の条件も満たす。このように参加する民間企業にも有利な条件を差し出し、共同開発プログラムを成功させている。

※5：プランニング・ゲイン (Planning Gain)：開発許可が与えられることで地価が上がる。民間開発会社と地方自治体の間で交渉が行われる。

※6：The Acme Southwark Studio Residency was established in 2006, following the completion of 50 permanent new-build studios at the Galleria in Peckham. 「Southwark Studio Residency」は、サザーク・カウンシル (ロンドンの自治体) とサウス・ロンドン・ギャラリー (公立ギャラリー) の共同出資により、アクメが再開発した前述の「ギャラリー」スタジオの無償提供と助成金が贈られる。

ジョナサン・ハーヴェイ Jonathan Harvey

1949年イングランド南西部コーンウォール生まれ。ロンドン在住。チェルシー・スクール・オブ・アートでファイン・アート修士、シティー大学アーツ・アドミニストレーション学修士。アクメ・スタジオ創設者・現CEO。TSW (テレビ局) のアート・コンサルタントとしてパブリック・アートの企画・運営、アート関連番組の共同プロデューサーなど多数。プリストル港側の現代アートセンター「Arnolfini」会長 (1993年~2006年)、全国アーティスト・スタジオ提供社連合 (NFASP, the National Federation of Artists' Studio Providers) の創設者兼理事 (2006年~2011年) を歴任

アクメ・スタジオ Acme Studios

設立：1972年

代表：ジョナサン・ハーヴェイ (創設者、現・CEO)、デイヴィッド・パントン (創設者、現・土地開発ディレクター)

住所：44 Copperfield Road, Bow, London, E3 4RR, United Kingdom

電話：+44 (0)20-8981-6811

ファックス：+44 (0)20-8983-0567

Eメール：mail@acme.org.uk

公式サイト：http://www.acme.org.uk/

※詳細は<http://www.acme.org.uk/assoc-artist-res.php>、または、プログラム・マネージャーのLea O'Loughlin (lea@acme.org.uk)まで